

平成22年度

第6回

# 県民アンケート調査報告書

農業・農村について

平成22年9月

新潟県知事政策局広報広聴課

# 目 次

I 調査の概要	1
II 調査結果の概要	
1. 新潟県の農産物のイメージ	2
2. これからの農業に期待すること	3
3. 農業の発展のために必要な取り組み	4
4. 農村地域を住みやすくするために必要なこと	5
5. 「行ってみたい農村」に必要なこと	6
6. 「地球にやさしく」のイメージ	7
7. 農村地域における環境のための取り組み	8
8. 「土地改良事業」の認知度	9
9. 「土地改良事業」についての情報媒体	10
10. 排水機場の役割に関する認知度	11
11. ため池の役割に関する認知度	12
12. 自由意見（抜粋）	13

## 利用にあたって

1. 結果は百分比で表示した。表及び解説の百分比は小数点第2位を四捨五入したため、合計が100%に過不足することがある。
2. 「n=〇」は回答者数を表し、百分比算出の基礎となっている。
3. 2つ以上の回答を認めたものは、その百分比の合計は100%を超える。

## I 調査の概要

### 1 調査項目

農業・農村について

### 2 調査目的

県では、今後、農業農村整備の新たな展開方向を検討する予定です。

今回のアンケートでは、「人にやさしく、地球にやさしく、新潟らしく」をキーワードに、県民のみなさまが持っている新潟県の農業・農村についてのイメージや期待していること、土地改良事業の認知度等を調査し、その結果を新たなプランに反映させる予定です。

### 3 調査期間

平成22年8月12日（木）～8月14日（土）

### 4 調査実施委託機関

株式会社 マクロミル

### 5 調査方法

インターネット調査

### 6 調査対象者

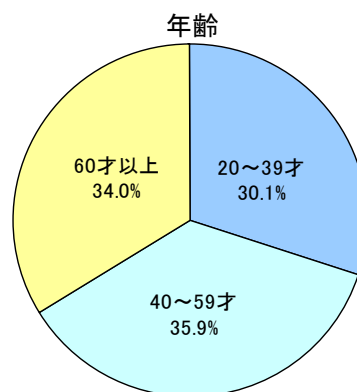
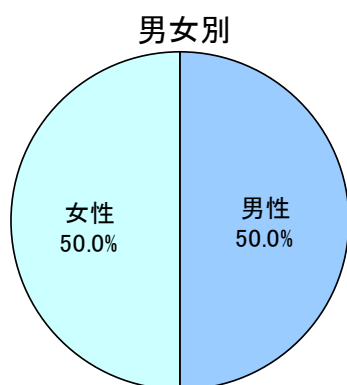
新潟県内に在住する20歳以上の男女

### 7 回答者数

312人

### 8 アンケート調査回答者の構成

		実数	割合
		312人	100.0%
性別	男性	156人	50.0%
	女性	156人	50.0%
年代別	20～39歳	94人	30.1%
	40～59歳	112人	35.9%
	60歳以上	106人	34.0%



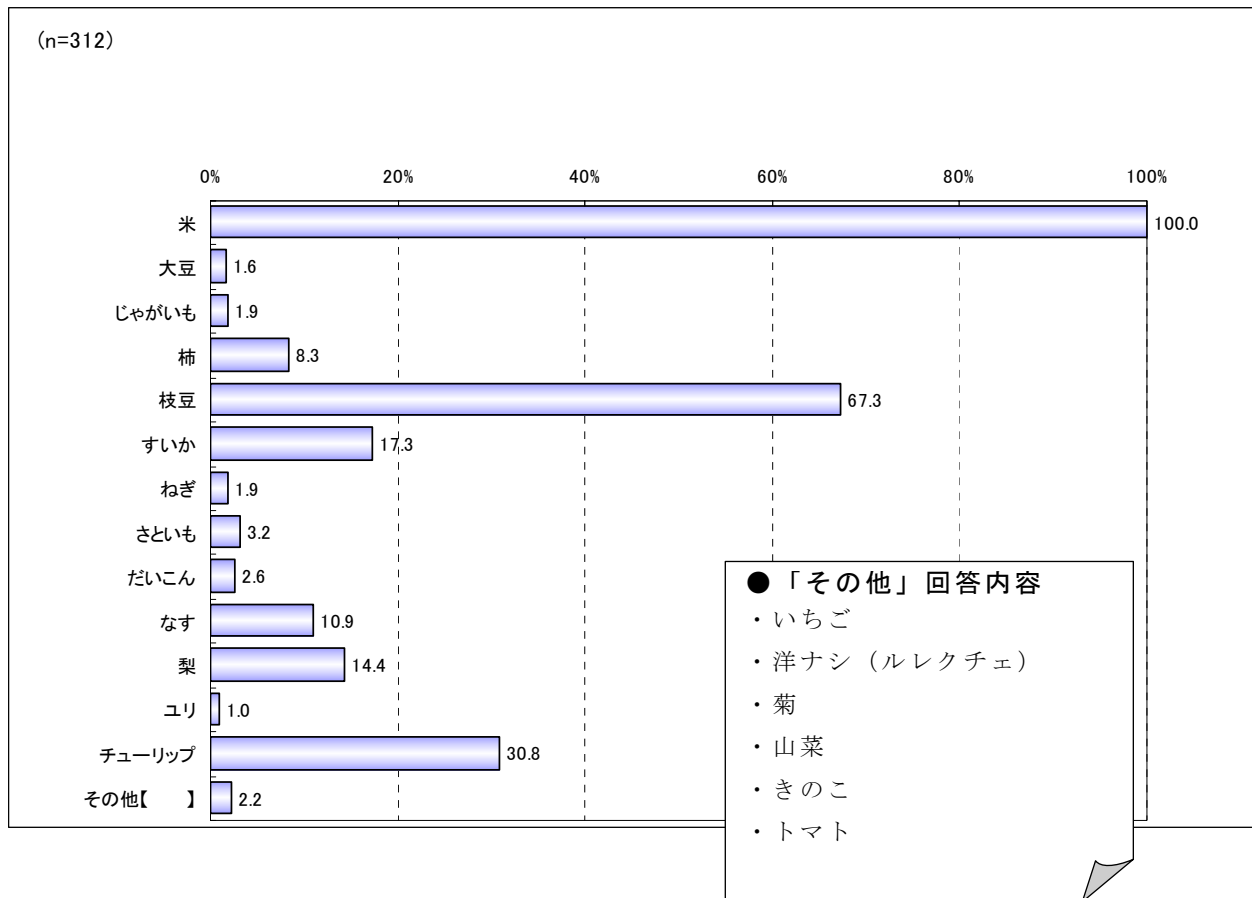
## Ⅱ 調査結果の概要

### 1 新潟県の農産物のイメージ

問1：「新潟県の農業」という言葉からイメージする農産物はどのようなものですか。あなたのイメージに当てはまるものを選んでください。

n=312（複数回答）

	回答者数	割合		回答者数	割合
米	312人	100.0%	さといも	10人	3.2%
大豆	5人	1.6%	だいこん	8人	2.6%
じゃがいも	6人	1.9%	なす	34人	10.9%
柿	26人	8.3%	梨	45人	14.4%
枝豆	210人	67.3%	ユリ	3人	1.0%
すいか	54人	17.3%	チューリップ	96人	30.8%
ねぎ	6人	1.9%	その他【 】	7人	2.2%
			全体	312人	100.0%



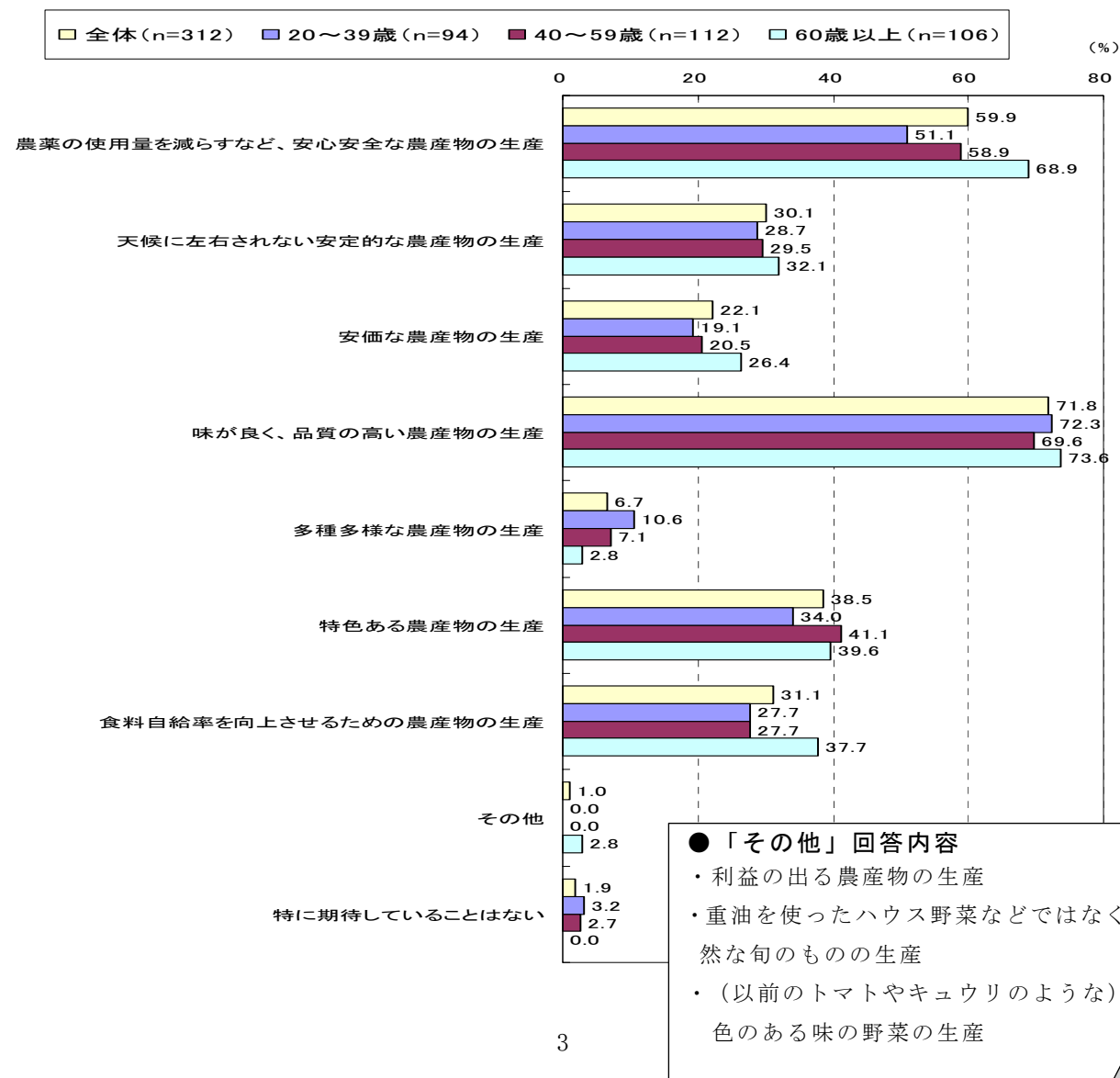
## 2 これからの農業に期待すること

問2：これからの新潟県の農業に何を期待しますか。あなたの考えに近いものを選んでください。

n=312（複数回答）

	回答者数	割合
農薬の使用量を減らすなど、安心安全な農産物の生産	187人	59.9%
天候に左右されない安定的な農産物の生産	94人	30.1%
安価な農産物の生産	69人	22.1%
味が良く、品質の高い農産物の生産	224人	71.8%
多種多様な農産物の生産	21人	6.7%
特色ある農産物の生産	120人	38.5%
食料自給率を向上させるための農産物の生産	97人	31.1%
その他【 】	3人	1.0%
特に期待していることはない	6人	1.9%
全体	312人	100.0%

【年代別】



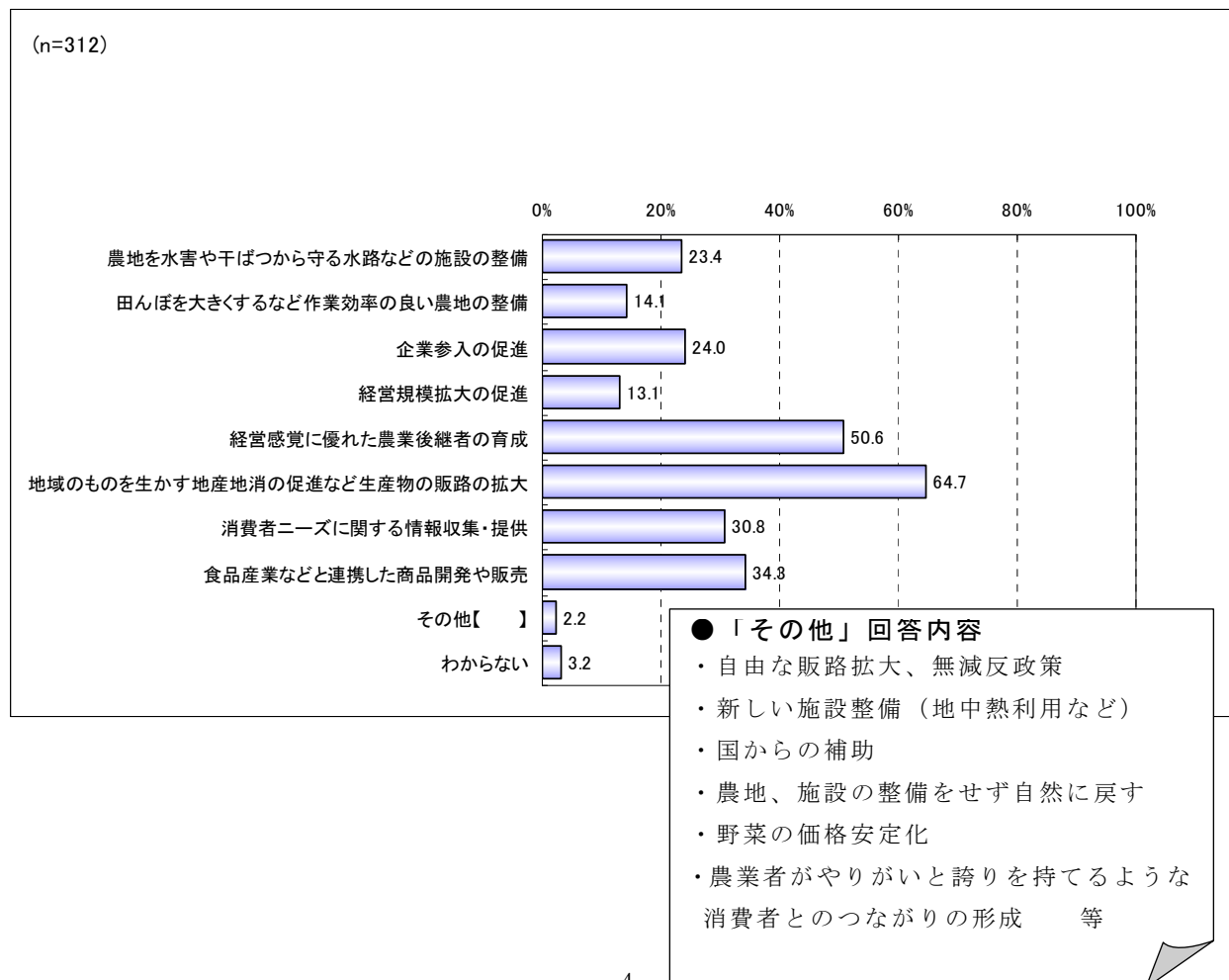
### 3 農業の発展のために必要な取り組み

問3：新潟県の農業がますます発展するために、どのような取り組みが必要だと思いますか。あなたの考えに近いものを選んでください。

n=312（単一回答）

	回答者数	割合
農地を水害や干ばつから守る水路などの施設の整備	73人	23.4%
田んぼを大きくするなど作業効率の良い農地の整備	44人	14.1%
企業参入の促進	75人	24.0%
経営規模拡大の促進	41人	13.1%
経営感覚に優れた農業後継者の育成	158人	50.6%
地域のもを生かす地産地消(※)の促進など生産物の販路の拡大	202人	64.7%
消費者ニーズに関する情報収集・提供	96人	30.8%
食品産業などと連携した商品開発や販売	107人	34.3%
その他【 】	7人	2.2%
わからない	10人	3.2%
全体	312人	100.0%

※地産地消：その地域で作られた農産物・水産物を、その地域で消費すること。



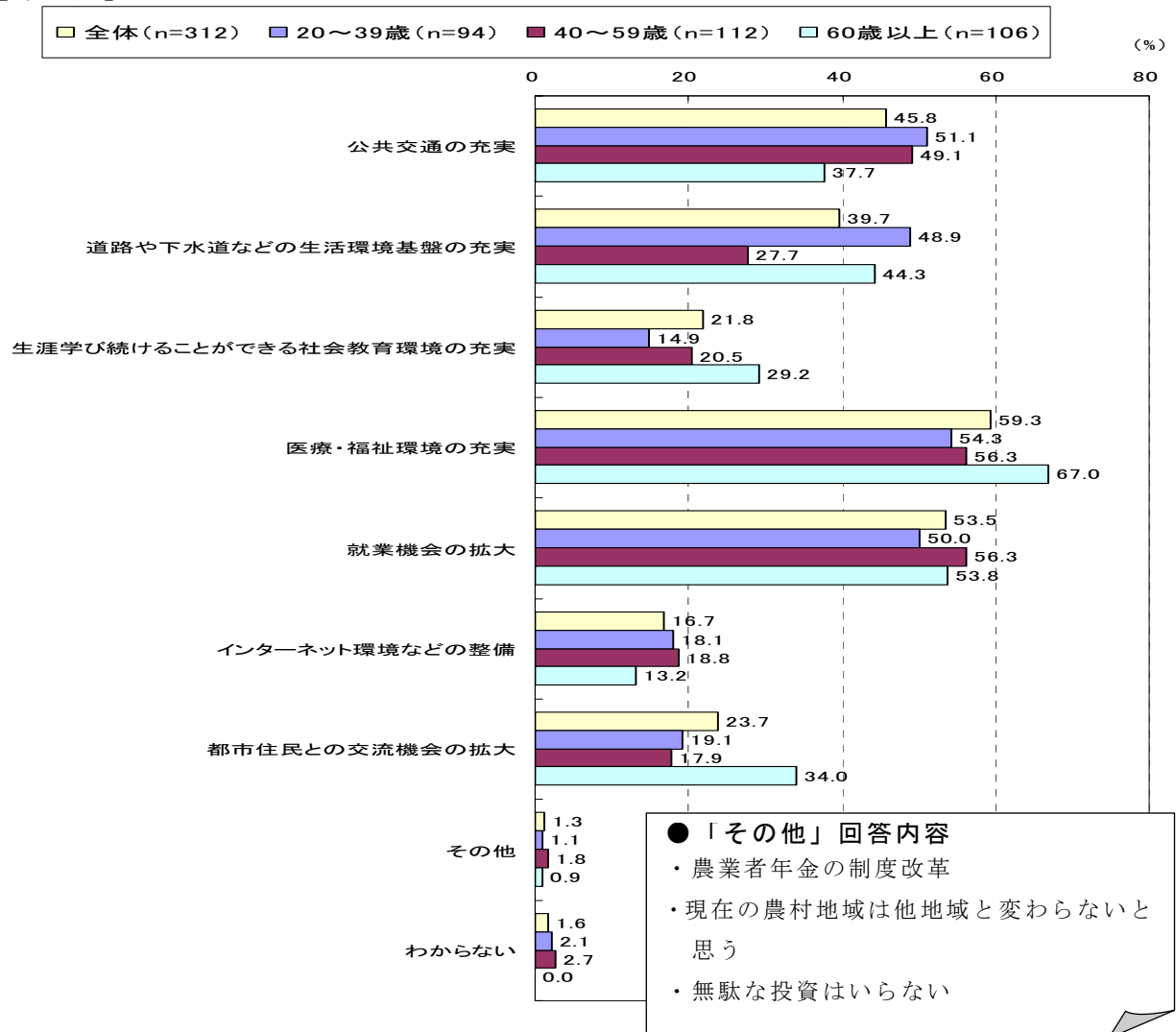
#### 4 農村地域を住みやすくするために必要なこと

問4：農村地域を住みやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近いものを選んでください。

n=312（複数回答）

	回答者数	割合
公共交通の充実	143人	45.8%
道路や下水道などの生活環境基盤の充実	124人	39.7%
生涯学び続けることができる社会教育環境の充実	68人	21.8%
医療・福祉環境の充実	185人	59.3%
就業機会の拡大	167人	53.5%
インターネット環境などの整備	52人	16.7%
都市住民との交流機会の拡大	74人	23.7%
その他【 】	4人	1.3%
わからない	5人	1.6%
全体	312人	100.0%

#### 【年代別】



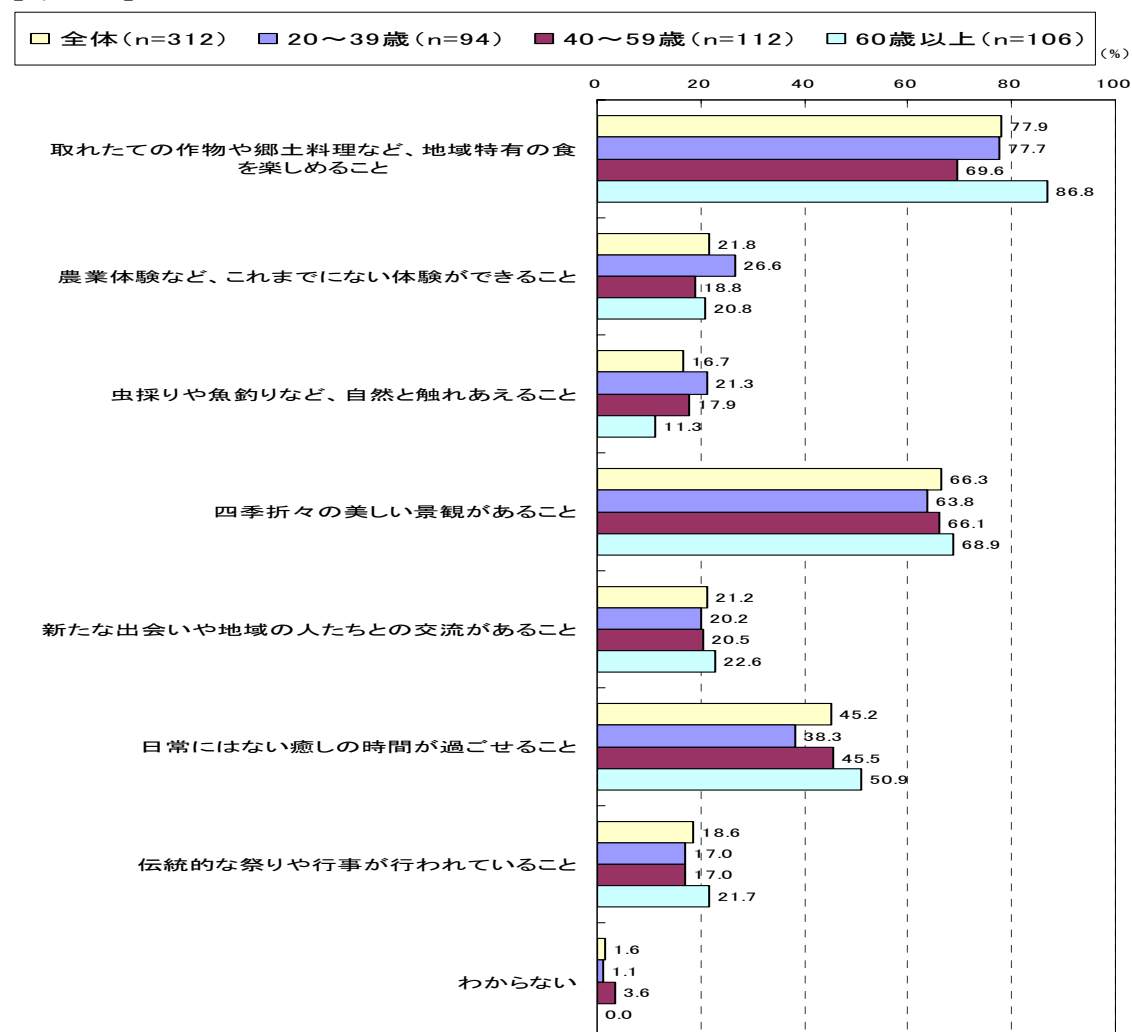
## 5 「行ってみたい農村」に必要なこと

問5：「行ってみたい農村」にはどのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近いものを選んでください。

n=312（複数回答）

	回答者数	割合
取れたての作物や郷土料理など、地域特有の食を楽しめること	243人	77.9%
農業体験など、これまでにない体験ができること	68人	21.8%
虫採りや魚釣りなど、自然と触れあえること	52人	16.7%
四季折々の美しい景観があること	207人	66.3%
新たな出会いや地域の人たちとの交流があること	66人	21.2%
日常にはない癒しの時間が過ごせること	141人	45.2%
伝統的な祭りや行事が行われていること	58人	18.6%
その他【 】	0人	0.0%
わからない	5人	1.6%
全体	312人	100.0%

### 【年代別】



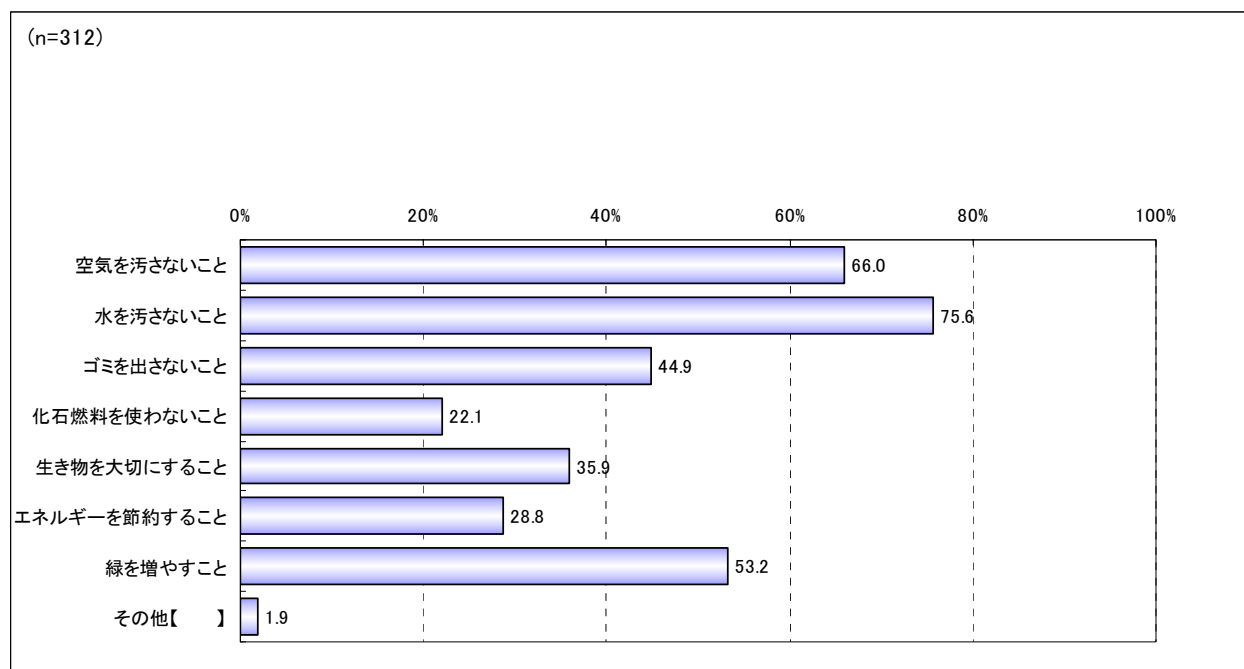


## 6 「地球にやさしく」のイメージ

問6：新潟県では「地球にやさしく」をキーワードに、農村地域の環境を守るための取り組みを進めています。「地球にやさしく」という言葉で、どのようなことをイメージしますか。

n=312（複数回答）

	回答者数	割合
空気を汚さないこと	206人	66.0%
水を汚さないこと	236人	75.6%
ゴミを出さないこと	140人	44.9%
化石燃料を使わないこと	69人	22.1%
生き物を大切にすること	112人	35.9%
エネルギーを節約すること	90人	28.8%
緑を増やすこと	166人	53.2%
その他【 】	6人	1.9%
全体	312人	100.0%



### ● 「その他」回答内容

- ・土を汚さないこと
- ・必要ない整備はやめて、自然のまま維持すること
- ・ポリやプラを使わず土に還るものを使うこと
- ・食べ物を捨てないこと
- ・原子力を使わず、自然エネルギーを利用するための補助を国が行うこと

等

## 7 農村地域における環境のための取り組み

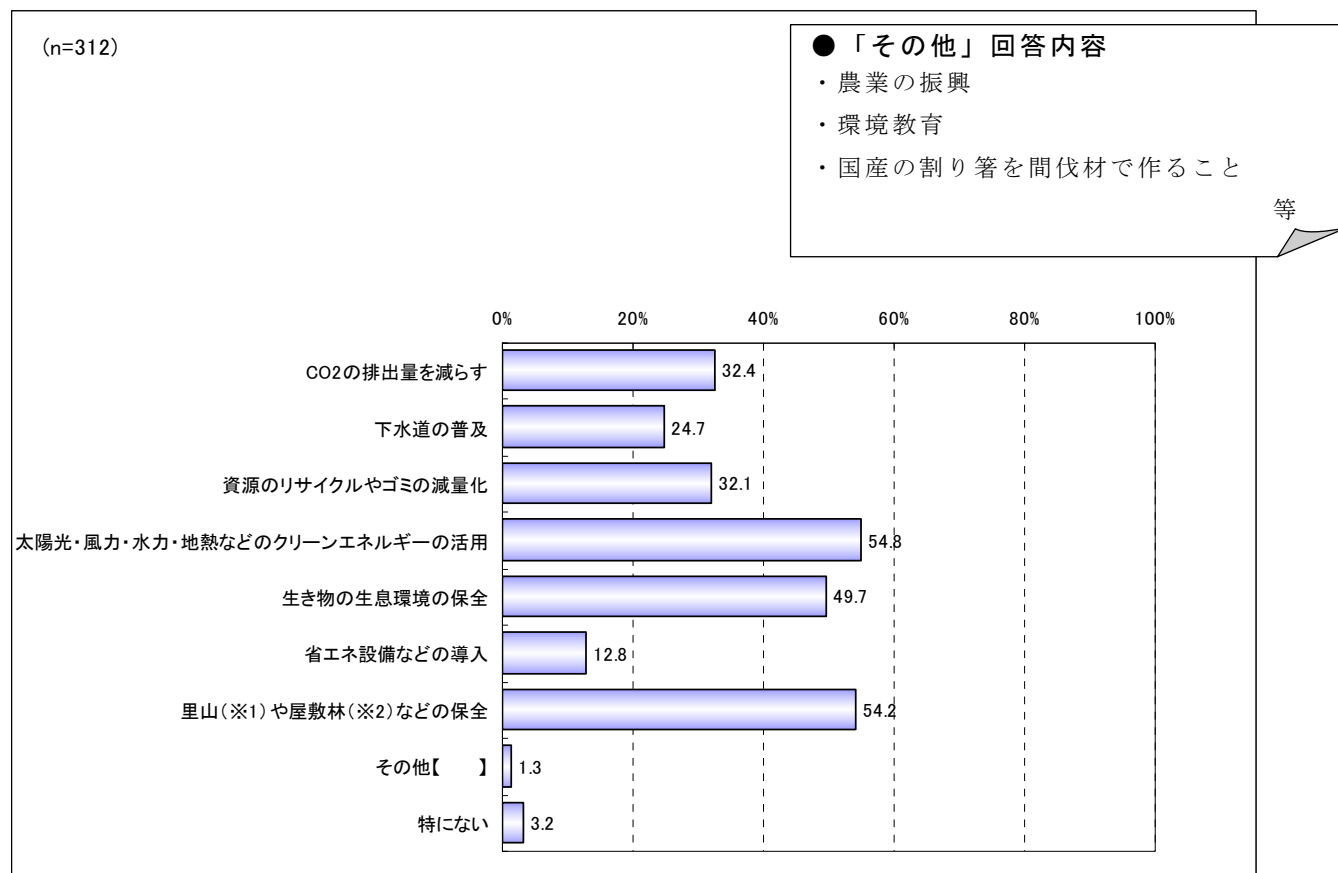
問7：今後、新潟の農村地域で環境のために進めた方が良くと思う取り組みはどのようなことですか。あなたの考えに近いものを選んでください。

n=312（複数回答）

	回答者数	割合
CO2の排出量を減らす	101人	32.4%
下水道の普及	77人	24.7%
資源のリサイクルやゴミの減量化	100人	32.1%
太陽光・風力・水力・地熱などのクリーンエネルギーの活用	171人	54.8%
生き物の生息環境の保全	155人	49.7%
省エネ設備などの導入	40人	12.8%
里山(※1)や屋敷林(※2)などの保全	169人	54.2%
その他【 】	4人	1.3%
特になし	10人	3.2%
全体	312人	100.0%

※1 里山：集落の近くにあり、かつては煮炊き用の薪や山菜などを採取していた人と関わり深い森林。人里近くにある、生活に結びついた山。

※2 屋敷林：屋敷の周囲にある暴風や防火のために植えた樹林。



## 8 「土地改良事業」の認知度

問8：あなたは『土地改良事業』を知っていましたか。

n=312（単一回答）

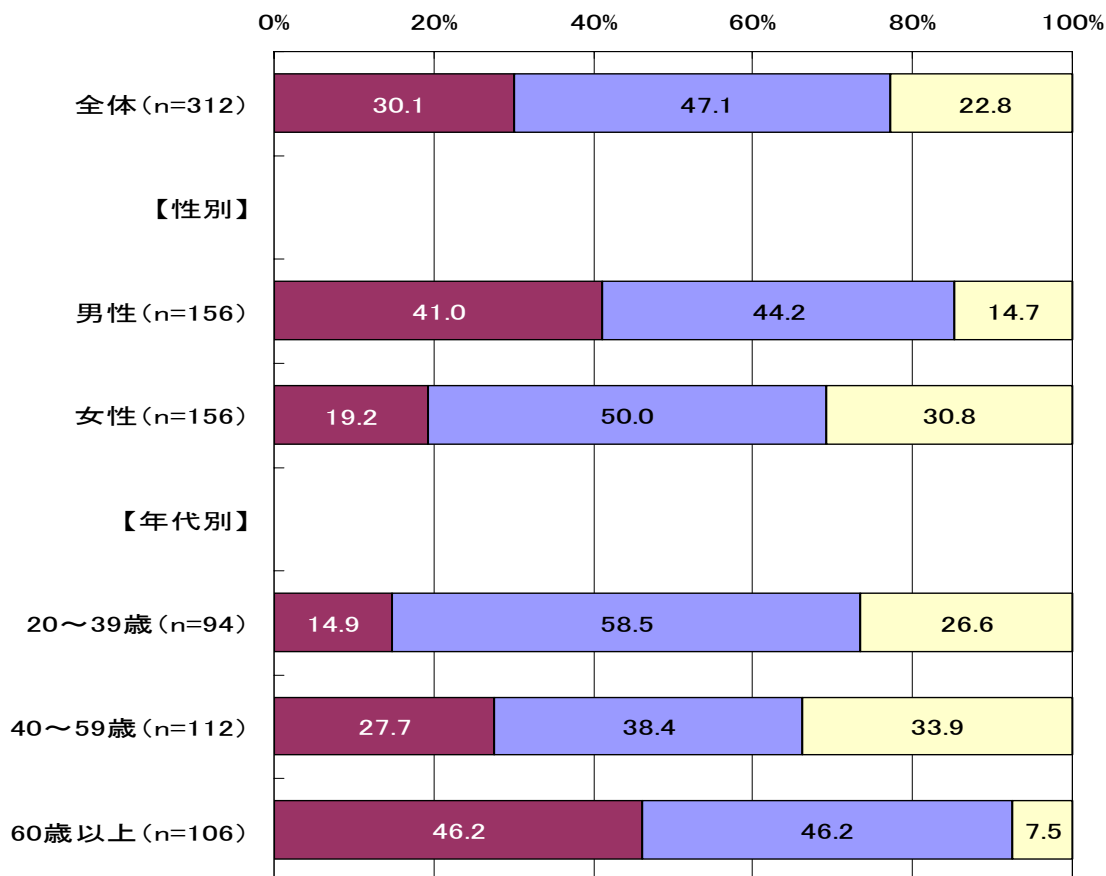
	回答者数	割合
知っていた	94人	30.1%
聞いたことがある	147人	47.1%
知らなかった	71人	22.8%
全体	312人	100.0%

### ◆◇土地改良事業とは◇◆

土地改良事業は農家の皆さんの発意で実施される事業で、農業生産の効率化を進めるため、農地の整備のほか、かんがい施設（作物の栽培に必要な水を供給する水路など）や排水施設（洪水による農業被害を防ぐために農地の水を排水する水路など）の整備を行うものです。

これらの施設は、自然環境の保全や住宅を水害から守るなど、地域の良好な生活環境づくりに役立っており、主に土地改良区という農家の組織する団体が管理を行っています。

■ 知っていた    ■ 聞いたことがある    □ 知らなかった

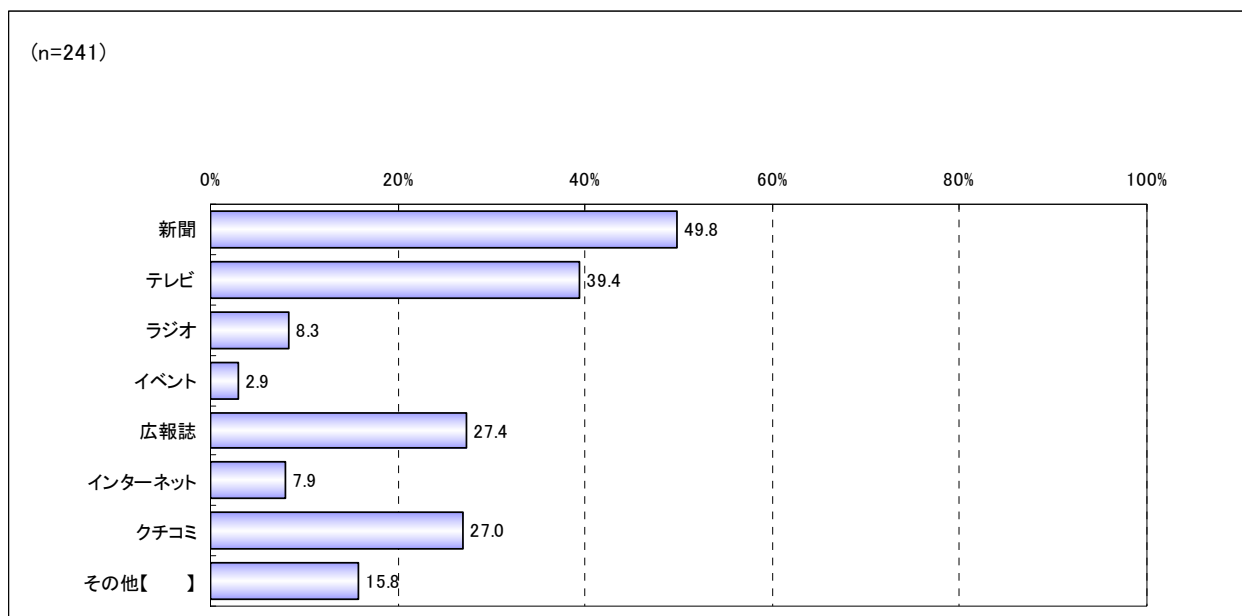


## 9 「土地改良事業」についての情報媒体

「土地改良事業」を「知っていた」「聞いたことがある」方へ  
 問9：「土地改良事業」についての情報はどこで知りましたか。

n=241（複数回答）

	回答者数	割合
新聞	120人	49.8%
テレビ	95人	39.4%
ラジオ	20人	8.3%
イベント	7人	2.9%
広報誌	66人	27.4%
インターネット	19人	7.9%
クチコミ	65人	27.0%
その他【 】	38人	15.8%
全体	241人	100.0%



### ● 「その他」回答内容

- ・ 仕事を通じて
- ・ 博物館・資料館
- ・ 直接農家の方から
- ・ 雑誌
- ・ 看板
- ・ 覚えていない

等

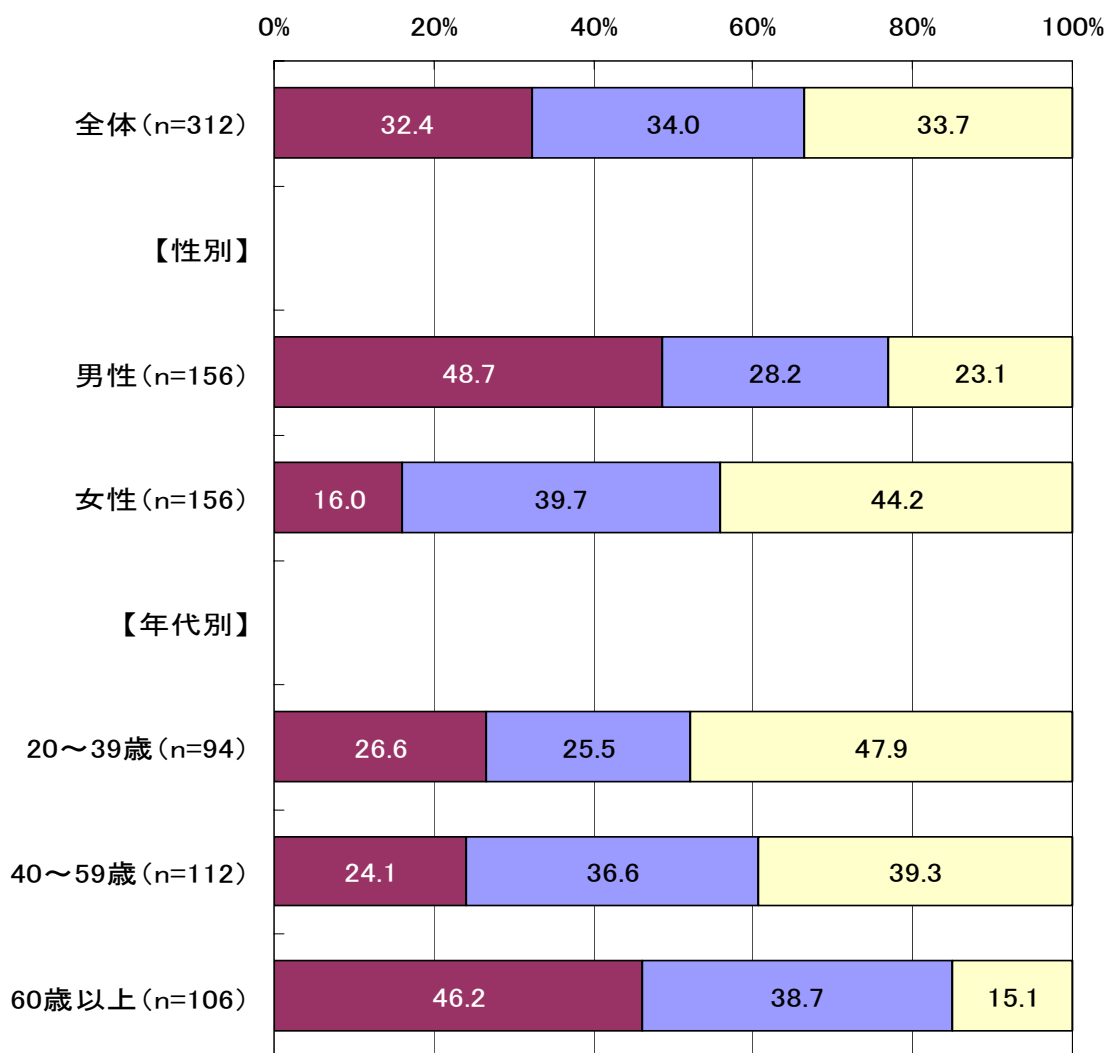
## 10 排水機場の役割に関する認知度

問10：あなたは農業用に建設された排水機場（大雨などの時、川へ排水する施設）が、地域を水害から守るために活躍していることを知っていましたか。

n=312（単一回答）

	回答者数	割合
知っていた	101人	32.4%
聞いたことがある	106人	34.0%
知らなかった	105人	33.7%
全体	312人	100.0%

■ 知っていた    ■ 聞いたことがある    □ 知らなかった



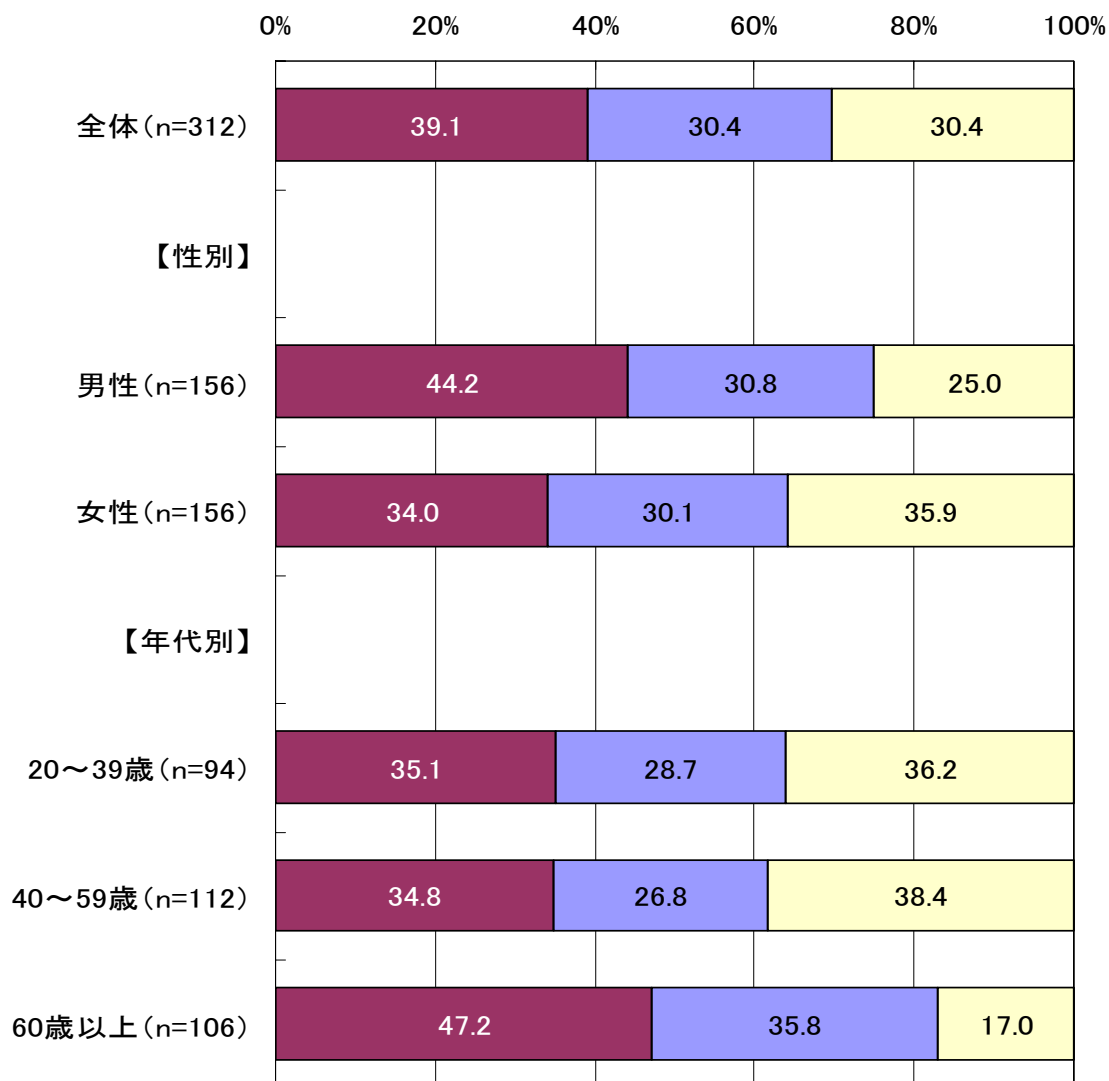
## 11 ため池の役割に関する認知度

問11：あなたは農業用に建設されたため池（農業に使う水をためる池）の水が防火用水にも使われていることを知っていましたか。

n=312（単一回答）

	回答者数	割合
知っていた	122人	39.1%
聞いたことがある	95人	30.4%
知らなかった	95人	30.4%
全体	312人	100.0%

■ 知っていた    ■ 聞いたことがある    □ 知らなかった



## 12 自由意見（抜粋）

問12：本県（新潟県）の農業や農村に関するご意見を自由にお書きください。  
（自由記載）

自由意見として寄せられた主なコメントを掲載する。（一部要約あり）

- 新潟県にはおいしい食べ物がたくさんあるのでそれを生かして活気のある農業を今以上に取り組んでいってほしいと思う。  
(女性、36歳)
- 農業をさらに発展させるは急務です。「農業事務」という新しい分野を開拓してみてもいいでしょうか。事務と言っても、ただ単に経理や総務関連ではありません。ネットワーク化、情報発信、情報共有といった、IT分野のスペシャリストを育成することも、これからの農業には不可欠です。  
(男性、43歳)
- 北海道のような、耕地面積の大きい大規模農業を指向するべきだと思う。  
(男性、60歳)
- 農業だけでも生活に困らないような収入を得るためのアドバイスやシステム作り、農業後継者育成の課題があると思う。  
(女性、51歳)
- 個別農家制度を廃止して、早急に株式会社化、工場化し、農業に携わる人が天候に左右されず安定した収入を得られるようにして、新種や農作物の加工製品の開発に力をいれ、県内全ての農業関係者に利益が出る様にした上で、農産品の安定供給および低価格化を図って欲しい。  
(男性、39歳)
- 就農者の高齢化は、若い世帯では農業だけでは生活できないことが最大の背景です。やがて訪れるであろう食糧難に備えて「乾燥野菜」などの製造促進・備蓄推進が急務だと思います。  
(男性、67歳)
- 大型マーケットの設置などで、農地が減っている気がする。  
(男性、30歳)
- 農村の維持、保全が大切。  
(男性、57歳)
- 土地改良事業により作業効率が上がり生産量も増え農家の人には良いことばかりでしょうが、外から見るとコンクリートの上に水が流れトンボ、蛍がどこで卵をうみ、どこで餌になる小動物を探すのだろうか、と考えてしまいます。佐渡のトキの為の一連の計画

は良いことです。私達が駄目にした自然をまた手をかけて昔の里山にもどりたいです。山林も荒れてますね…

(女性、64歳)

- 自分が見知っている限りは、あまり変わりがないように思えてしまう。でもやっぱり厳しい状況なのでしょうね。

(女性、25歳)

- 今の取り組み方は、おかしいと思っている。方向性が違うと思う。

(男性、49歳)

- 気軽に触れ合える機会を増やして欲しい。

(女性、20歳)

- 農地を保全する取り組みをしないと、農業は崩壊する。

(男性、57歳)

- ネットでの商品情報配信、農作業の機械化なども進み、若い人が興味を持てるようになった。

(女性、44歳)

- 昨年、水と土の芸術祭に参加して、新潟は水と戦ってきたり水を利用して今のような農業ができるようになったんだと関心を持った。

(女性、50歳)

- 農産物の豊富な新潟県としては、今後も安定した農業の推進を目指してほしい。

(男性、65歳)

- 全国どこでもそうであろうが、高齢化、人材不足、低賃金などの諸問題をいかに解決していくかにかかると思う。食が大切なことはだれも解かっている事だが、若手は生活が成り立たないのでは、就業しづらい。

(男性、49歳)

- 食がすべての基本なので、農家の方はがんばってもらいたい。

(男性、46歳)

- 米作に頼るばかりでなく、野菜や園芸の分野にももっと目を向けるべきだと思う。コメ余りに加えて、北海道など他の地方での米も新潟に遜色のない美味しいコメが作られるようになってきているから。

(男性、66歳)

- 米の活用を考えた、米粉の製品をよく口にするようになりました。手ごろな価格になるよう願っています。

(女性、72歳)



- 高齢化が進んで、せっかくおいしいお米が取れるのに田んぼが無くなっていくのがさびしいです。

(女性、42歳)

- 若者が農業に従事しやすいように支援が必要。仕事のないひとに農業をもっと進める。また、農家に嫁ぐ女性が多くなるように県でも積極的に働きかけてほしい。食料自給率を上げるためにも農業県の新潟としては努力が必要。米をパスタやパンにするなどの取り組みが始まっているが、いい傾向である。もっともっと消費者も需要するべき。また、地域での特徴ある野菜作りとPRに従事者と消費者で盛り上げていくべき。そうした取り組みをマスコミが大々的に取り上げ、県の特色としていきたい。それが地域発展につながると思う。アイデアとやる気次第で新潟県は大きく飛躍すると思う。「若者に夢を、老人に元気を」をモットーに頑張ろう！！

(女性、61歳)

- 最近は大雪だったり、雪が少なかったり、気温が低かったり異常に高かったり、なかなか安定する農業ができないのかなと少し不安になったりもします。

(女性、45歳)

- 米がおいしいので継続できるように環境を整えて欲しい。農家の友達は、米の単価が安くて嘆いています。安くて美味しいだけじゃなく、高くても美味しい環境を。

(女性、33歳)

- 自然志向、健康志向の現在、新潟県の農村の素晴らしい景色や地元農業の農産物は宝物です。ぜひ、大切に守りながら発展してほしい。

(女性、53歳)

- 新潟の農産物は高品質で安全性の高いものが多い。そういったものを、付加価値をつけて全国・海外に展開していけるような施策を官民あげて考えていってほしいと思う。

(男性、28歳)

- 農業だけで生きていけるように農産物の定価を安定させること。

(女性、73歳)

- 農地はたくさんあるが、後継者の不足や作物の単価の下落などにより自給率も含め今後は非常に心配である。経費のかかりすぎない農業・新潟の特色を生かした農作物など行政はニーズを把握し改善をしてほしい。

(女性、43歳)

- 新潟平野を利用した効率良い田畑の作りになっていると思います。環境改善に取り組んでいる方々がいることも知っています。虫が住むようにしたいそうですが、そのような運動も多くの方々に知っていただき、多くの方々から参加していただきたいと思います。

(女性、52歳)

- 最近はお地の野菜を安く購入することができる場所が増えてきて便利になった。

(女性、61歳)

- 米だけでなく、特色のある農産物の生産に力を入れるべきだと思う。  
(女性、35歳)
- 新潟は、ほんとに米もおいしいし、いろんな野菜がいっぱいで、住んでいてよかったとおもいます。  
(女性、40歳)
- 主婦の立場としては、良い土で農薬をあまり使わなくても美味しく安全な野菜を作れるような工夫をしてほしい。  
(女性、62歳)
- 品質の良い米を作り続けてほしい。安全、安心が何よりも大切だと思う。  
(男性、30歳)
- 産直野菜が安いといいながらスーパーと変わらなかつたりします。もっと消費者感覚で青空市的な定期販売が出来るといいと思います。  
(男性、47歳)
- 東京に住んでいる友達が新潟に遊びに来てくれて、その時に「新潟の食べ物はどれも美味しい」と言ってくれました。そこで初めて新潟産の農作物は県外の人に喜んでもらえるものだと知りました。今後もそう思ってもらえるように、新潟の農作物の美味しさを保ってもらいたいと思います。  
(女性、34歳)
- コシヒカリは有名過ぎて価格が高いから、安くて美味しい名柄を作って欲しい。  
(男性、56歳)
- 新潟の農産物は好きです。新潟に帰ってきて、新潟の食はおいしいと再認識しました。  
(女性、29歳)
- 農村は就業の機会が少ないと思うので、もっと就業の機会が増えるように県は企業誘致を積極的に行う必要がある。  
(男性、22歳)
- 新潟県に限らないが、自活できる社会・経済構造が必要。  
(男性、61歳)
- 就職難のこの時代に農業への派遣業を作って欲しい。  
(男性、39歳)
- 後継者の育成が大事だと思う。新潟県のブランド力のある農産物をこれからも期待したいし応援したい。  
(女性、52歳)

- 就業機会を失って失業中の若者などが農業に参入できるシステムを構築していくようにすれば、食料自給率や就職難の問題が一度に解決するのではないかと思います。  
(女性、49歳)
- 高齢化による農業従事者の減少をなくすために、若手従事者の育成、経済的負担の軽減のための安価で効率的な作業機械の開発、導入を推進するべきだと思います。  
(女性、44歳)
- 後継者の若者が従事したくなる環境を整える必要がある。
  1. 若者が地元で活躍できる環境
  2. インターネットの充実
  3. 医療機関が都市と変わりなく充実している事
 (女性、61歳)
- 中途半端な都市化がされているせいで、農業地なのに汚染されている雰囲気があるのが良くないと思う。都市は都市、田舎は田舎で良いのではないか？私はとなりのトトロのような村の風景が住むには不便だとしても素晴らしいことだと思う。  
(男性、29歳)
- コメ依存で専門家が少なく、兼業農家が大半で規模が小さい。高齢化が進み、後継者不在である。原因は農業専業では生計が成り立たない時代が長く続き、今後も先が見通せないことにある。企業化できる農業、海外へも販路を拡大する意欲のある企業を育成すべきである。里山や、山間農家は自然や山林を育て守ることが収入に繋がるように支援する等、国土の保全と有効利用を進められないだろうか。  
(男性、66歳)
- いくら大事な事と思っていても、都会に住む人には農業の大変さは理解できない。言うだけは誰にも出来る。実行は大変難しい。年に1週間ほどしか使わないが、何100万円もする機械を一軒が何台も持っているようなコストをかけている現状を何とか出来ないのでしょうか。農家はけっこう我儘な人が多く、他人と協力するなんて考えない人が多いような気がします。同僚にもいますが、「作付、収穫が殆ど同時期になるので、機械の共同購入は出来ない。」と、言っていました。ここが大きな障害になっているのでしょうか。これがクリアされれば、コスト削減になるかも。作業設備費が相当大きいと思います。  
(男性、61歳)
- 水田単作でなく稲作も含めて複合多種耕作を目指すべきである。不在地主で耕作放棄されている農地の積極的な活用を図るべきである。勝手の棚田で、耕作放棄された農地は再生したくても、道路がなく再生のための手入れができません。集落営農等のシステムを活用して、水田だけでなしに、畑地や果樹栽培が可能になるように支援できないでしょうか。  
(男性、67歳)
- 経営の安定化で、米の安定供給を望む。  
(男性、45歳)

- 昔、仕事で新潟県の農業に関わったことがあります。新潟県民はまじめで、すべて農家  
が実直に高水準の農業を当たり前に行っていることを知りました。米以外の農産物の出  
来も、他の県より良いです。しかし、農家自身は見聞が狭く、そのことを知らず、自分  
たちの農業に誇りややりがいを感じられない方が多くいることを残念に思いました。農  
家が、消費者に近い距離で「美味しいよ」と言ってもらえ、自分たちの農業がいかに優  
れているか実感できる仕組みがあると、双方にとって良い循環を生み出し、それが生産  
性の向上や利益の増を生み出すことにつながるのではないかと考えます。  
(女性、39歳)
- 効率の良い経営力のある優秀な農家を育てることだと思う。  
(女性、62歳)
- 米中心の農業からの脱皮、地域の食産業との連携をより密にする（スーパー、レストラ  
ン、コンビニ等）。より消費者を意識した販売を指向して欲しい。  
(男性、69歳)
- 簡易販売所のようなものの充実があると、個人農家の野菜等が気軽に買えてよいと思う。  
ただし、交通網の便利さが必須条件だと思う。どこに行くにも車が必要というのは、少  
し大変である。  
(男性、34歳)
- 山間地には、後継者がいない為、今後数十年で消滅すると予想される部落が多数ある。  
これはある程度止むを得ない事と思う。無理して存続させようとするより、自然と融合  
させた形で別な用途に転換させた方が良いと思う。逆に平地では、無節操な商業地開発  
を止め、農地や農村を残し、全体的に、農地、宅地、商業施設をある程度の規模で分散  
させるのが良いと思う。  
(男性、61歳)
- 農業のアンケートは各種あるが、林業については全くないように見える。里山、竹山な  
ど間伐も含めて山の手入れも必要だ。国有財産と日手山の手入れをしないと間に合わな  
いのではないかと考えているのだが・・・  
(男性、69歳)
- 農業はとても大切な職業だと思うので、その人たちが守られるような制度や整備を行っ  
てほしいです。  
(女性、25歳)
- 平野部に比べて山間部の整備・開発を重点的に実施すべきだと思う。  
(男性、69歳)
- これ以上、田を減反しないようにして欲しい。  
(女性、31歳)
- 米作りが適している地域（新潟県他）で、減反問題を同じように扱うのはもったいない  
と思います。若い人が家業を安心して継げる体制を考えなくては、日本の農業は先が暗

いばかりだと思います。

(女性、62歳)

- 休耕田等広く活用出来るような政策を進めることが必要。また農業従事者が希望を持てるような政策が急務。

(男性、64歳)

- 地域的に仕方の無い事なのでしょうが、冬野菜の種類少なさと価格の高さには驚かされました。昨年12月からこちらに住んでいますが、これ程広大な田んぼは今まで見たことがありませんでした。

(男性、54歳)

- 色々研究が進められているが、それらに基づき環境保全等に力を入れ、今のいいところを生かしていけばいいと思います。

(女性、60歳)

- 跡継ぎも無く、老人だけが残されていく農村は田畑も荒地と化して行く。跡継ぎが残らないのは故郷に魅力が無いからだと思う。農業だけでは生活できない。職場も遠く、病院も遠い。遊ぶ施設も無い。安定した生活を営めない雪深い農村では未来に希望など持てない。

(女性、43歳)

- そこで働くことが楽しい環境であって欲しい。

(男性、71歳)

- 基本的には地産地消、生産に余裕が出たものを東京・大阪に廻せばよい。大手スーパー等の雇われにならず、地元の為に安心安全の農産物を作ることを誇りとして自立した農業を目指して欲しい。

(男性、61歳)

- 地産地消を飲食店・学校給食に積極的に取り入れ、特産物の加工にも企業と提携して力を入れて都会に発信して欲しい。

(女性、63歳)

- 農薬を使っている土での安全性は公表されていないので、土が健全なのかちゃんと調べて公表して欲しい。地産地消と良く耳にするが、意外とお店には地場産が少ないと思うのでもう少し何とかして欲しい。農産物の安価安定供給が望まれる。

(男性、42歳)

- 魅力ある農村にするため、都会人との交流を企画すべきである。

(男性、70歳)

- 就労者の高齢化が進んでいるのではないだろうか？産業として育成するには農村や農家の企業化などの新たな取り組みも必要ではと思う。ただ、他産業からの参入という企

業化ではなく、地域としての地元の人がやらないといけない。

(男性、39歳)

- いつでも、そこに行けば新鮮な野菜や食べることが出来る場所があればいいと思う。イベントなどがあるけど何時あるかわからないし、小さくやらないで大きくいつでもやっていたら、だんだん人が多く行くようになると思います

(女性、62歳)

- 水が綺麗な新潟で、米などの農産物・酒以外にも活用できる計画が欲しい。

(女性、45歳)

- 田んぼが潰され道路になったりして農業区域が狭くなっている気がする。農業に興味があるので、誰でも気軽に体験できる仕組みを作って農業拡大を図っていったほうがいいと思う。

(女性、29歳)

- 減反政策で農業に活気がなくなっている。後継者の育成や米以外の農産物に力を入れるとともに伝統行事を活用した村起こしなどが必要だと思う。

(男性、64歳)

- 物を作るだけでは物は売れない。売り方を考える必要がある。

(男性、27歳)

- 農村地域では、子供が学べる環境が伴っていないことが問題に感じる。進学・就職とも、進路の選択肢を多くするため、子供が外部に出て行ってしまうイメージがある。農業の法人組織化などで、農業の維持と若年層の働く場所を両立することはできないかと考える。

他県の人に新潟のイメージを聞くと「コメ、日本酒」と返ってくることが多いが、それに対して新潟の人は「コメしかない」と自虐的に言いがちであることが気になる。

「コメどころのわが街新潟」という誇りとともに、コメ以外の農産物も他県の人に知ってほしいという思いがある。

(女性、28歳)

- 日頃考えていることが二点あります。一点目は、農業の後継者が少なくなっていることが心配です。このままでは都市部に人口が集中して農村から人がいなくなってしまうような感じがします。「人が少ない」「利用する人がいない」と机上論で物事を進めているから、農村からさまざまなものがなくなり便利な暮らしを求めて都市部に人口が集中すると思います。農業をする人がいなくなれば日本がますます自給自足できなくなっていく、食糧のほとんどが外国産になってしまう日がくるのではないのでしょうか。そして、農業をしたいと思うような環境も必要だと思います。農業するのはお金がかかります。お金の面で農家にもっと補助をすることも大事ではないのでしょうか。二点目は、アピール不足です。新潟は大きな平野があり、おいしい物がたくさんとれます。農業が発展しているからたくさんのおいしいものが取れると思います。県外に、もっと農業の良いところや新潟の農業についてアピールした方がいいと思います。

(女性、36歳)

- 税金をつぎ込むことばかり考えず、地道に経営感覚を養いつつ、消費者ニーズにこたえていって欲しい。施設は作れば、維持管理に膨大なお金がかかる。それを意識しないと、どんどん税金を食ってばかりになる。  
(女性、60歳)
- 農地はたくさんあるが、後継者の不足や作物の単価の下落などにより自給率も含め今後が非常に心配である。経費のかかりすぎない農業・新潟の特色を生かした農作物など行政はニーズを把握し改善をしてほしい。  
(女性、43歳)
- 農家の経営能力の低さを感じる。売ることに対して消極的。それに対して行政ももっと支援が必要だと思う。国の事業仕分けでお金を削られたなら、新潟県全体がもっと積極的に新潟の農業を守るべき。  
(女性、47歳)
- 無駄なダム建設を減らすため、余っている農業用水を工業用水や生活用水に転用できるよう、水利権の緩和を！  
(男性、33歳)
- 小規模、兼業農家まで助成するようなことはやめること。  
(男性、74歳)
- 農家の収入が増えるように、行政はもっと経済面で農家を支えるべきだと思う。  
(女性、36歳)
- 四季それぞれで楽しめる、当地産があるといいなと思います。  
(男性、34歳)
- 県、企業、大学などとの交流を図り、情報の収集、商品開発に力を入れる。他県との差別化、特徴を考えてみる必要があるのではないか。  
(女性、62歳)
- 新潟県独自の何かを確立してほしい。  
(男性、31歳)
- 日本で一番の農業県を目指すべき。  
(男性、41歳)
- 新潟県ならではの特色を前面に押し出してほしい。県外の人たちが新潟にまでくる価値があると思えるようにしてほしい。若い世代の考えもしっかりと汲み取り、温故知新で取り組んでいくことが必要だと考えます。  
(男性、35歳)
- 東京に比べてお米が大変美味しいので、やはり米所と言われるだけあると思った。ここ

でしか食べられない味を大事に守ってほしい。それによって他県との差別化も図れる。日本の自給自足にも一役買ってほしい。

(女性、34歳)

- 農業県の誇りを持って、他の県の農業活動を推進する様な活動をしてほしい。政権交代による人気取りの政策に負けない新潟独自の方針を堅持してほしい。

(女性、64歳)

- オリジナルを大切に品質の高い良いものを作ってほしい。

(男性、56歳)

- 最近は都市部の人達と交流を通じて、農業に対する理解を深めるイベントが行われる事が多くなり良いことであると思う。後継者の中に新しい農業を目指し熱心に取り組んでいる人のためにも国内での自給量を増やすべきだと思う。余るほど輸入する必要はない。

(女性、67歳)

- 新潟県には、美味しい食べ物が豊富にあると思います。そのことがなぜか全国に知られていないのでは？より情報発信をすべきではないか。(宮崎県のように)

(男性、61歳)

- 農業の大事さやすばらしさをもっとアピールできるように改革をすれば、若者の就業者を増やせると思います。

(女性、60歳)

- 美味しい物が沢山あるので、ネットを使い広く販路をひろげることが必要。宣伝ベタが、他県よりも感じられる。もっと食欲にならないとだんだん取り残される。民間の力を十分に生かすことが必要。

(女性、61歳)

- 美味しい農産物が沢山あるのに、発信力が大変不足していると思います。専門家のアドバイスや県出身の渡辺謙さんなどの力も借りて、資金も使い、アピールして、農業県としての上越・中越・下越の魅力を広げて、自然の豊かな県・農業・農村の真の良さを宣伝して欲しい。

(女性、61歳)

- 子供でもわかりやすいイラスト付きの冊子や新聞のコラム・ネットを使っての情報を掲載したりなど、農業者との身近な関係を築きながら新潟県の農業の良さをもっと外部に伝えてほしいです。

(女性、34歳)

- これからも日本一の米を作り続ける為に、後継者の育成や農業体験に力を入れてほしい。

(女性、20歳)



- 農業は新潟県の基幹産業です。農家経営に夢が持てるような県政を望む。  
(男性、67歳)
- 休耕地を有効に活用できるように、ニーズに応じた農産物の生産を支援する施策（官、民、協働）。  
(男性、63歳)